2022 年 8 月 31 日
教務学生委員会（教授会報告資料）

2022 年度後期授業評価のまとめ

今年度前期の授業評価アンケート調査の結果概要を以下にまとめる。概要を以下に記す。

	登録学生数 (研究生含)	回答者		授業満足度					授業目的達成度				
		数	%	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
基礎科目													
1	14	9	64%	0	0	0	5	4	0	0	0	4	5
2	62	58	94%	1	3	8	24	22	2	2	5	24	25
3	26	13	50%	0	0	0	2	11	0	0	0	0	13
4	15	6	40%	0	0	0	5	1	0	0	0	5	1
5	24	8	33%	0	0	2	1	5	0	0	1	2	5
6	70	15	21%	0	0	0	0	15	0	0	0	0	15
小計	211	109	52%	1	3	10	37	58	2	2	6	35	64
プログラム科目													
1	2	2	100%	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1
2	4	4	100%	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3
3	18	17	94%	0	0	1	5	11	0	0	3	4	10
4	23	16	70%	0	0	0	4	12	0	0	0	7	9
5	10	4	40%	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4
6	24	10	42%	0	1	2	5	2	1	2	1	4	2
7	9	10	111%	0	0	2	4	4	0	0	3	2	5
8	9	8	89%	1	0	0	1	6	1	0	0	2	5
9	17	15	88%	0	0	0	8	7	0	0	0	8	7
10	12	12	100%	0	1	0	6	4	0	0	1	7	4
11	10	10	100%	0	0	2	2	6	0	0	1	2	7
12	12	1	8%	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
13	13	7	54%	0	0	0	4	3	0	0	0	4	3
14	9	6	67%	0	0	0	1	5	0	0	1	4	1
15	11	8	73%	0	2	0	4	2	0	0	1	4	3
16	19	16	84%	0	0	1	9	6	0	0	1	11	4
17	18	12	67%	0	0	0	7	5	0	0	2	7	3
小計	220	158	72%	1	4	9	61	82	2	2	15	67	72
合計	**431**	**267**	**62%**	**2**	**7**	**19**	**98**	**140**	**4**	**4**	**21**	**102**	**136**

１．満足度・達成度ともに、例年同様、平均して高い評価を受けている。

２．学生の意見・感想

＜肯定的なもの＞

- コースのシラバスは適切に作成、運営されていると思う。
- このコースにはとても満足した。一つだけ希望を上げるなら、授業期間をもう少し長くして、より実践的な内容を学べるようにしてほしい。
- STATA のコード、ビデオ、復習用のビデオなど、全ての教材を提供してくれるところが良い。私はコーディングについて少ししか知識がないので、内容の理解が難しい時もあるが、提供していただいた講義資料をステップバイステップで仲間と一緒になって試すことができ、ありがたかった。
- このコースで、理論の説明がなされた上での、複数のリソースパーソンへのインタビューなど、すぐに実践に移すことができる優れた講義内容だったと感じている。クラスの雰囲気はとてもよく、柔軟であった。授業と知識を提供していただき、先生にとても感謝している。
- 講師が資料の空欄を単に埋めていくのではなく、いろいろなアプローチをしてくれるので、学生がより興味を持つことができる。
- この講義ではとても要求されるものが多いが、興味深いものだった。異なる背景を持つインフォーマントとの 2 回のインタビューはとても興味深いものだった。個人的には、フィールドリサーチの様々なアプローチについて、リーディングから多くを学ぶことができた。これらの知識を実際の修士論文の研究に役立てたいと思う。
- 授業内でお互いにコミュニケーションする機会がたくさんあった。とてもインタラクティブな授業だった。
- このコースは、学生が問題に対して異なる視点を持つことができ、また、何かについて深く考えることができるようになるため、全体として良いものだと思う。
- このコースで講師が改善すべき点はないと思う。授業で行われる内容や学習量は適切であり、非常に効果的である。
- 個人的には、授業と学習の全体的なプロセスにとても満足している。現在までのところ、最高のクラスである。そのため、改善すべき点はないと思う。
- この授業は、M1 生としての最初の学期で、最も優れた授業の一つであった。先生の授業はとても楽しむことができ、学生の意見一つ一つを受け入れ、有効なものにし、たとえそれが本質でないものであったとしても、リーディング課題の文脈に学生を導き戻そうとする姿勢が感じられた。ある課題図書が専門用語の点にて非常に難解なものであったとしても、授業で学生が理解しづらい部分を明確に説明してくれた。
- ポリシー・ブリーフ・ガイダンスの資料には、推奨される雑誌記事と教科書がリストアップされており、とても役に立った。また、最初の講義で一般的な推薦図書や学術雑誌が提供されると、学生にとってより有益だと思う。
- 架空のケースを使い、現実世界での経験として学生の思考や意思決定を刺激するような授業を続けてほしいと思う。
- 授業内容はすべて気に入っている。事前課題からの質問に基づいた授業内でのディスカッションの部分は、他の人の意見を知り、理解するのに非常に効果的だった。素晴らしい経験をありがとうございました。
- 授業内のグループディスカッションが楽しかった。お互いに学び合いながら、教育における概念や枠組みを学ぶことができました。この授業で採用された方法は、ディスカッションの際に、より多くの生徒が参加できる最良の方法だと思う。
- 講義全体を通して、とても価値のある授業だと思う。学生と講師の交流が盛んである。講師による指摘が明確で、ブレーンストーミングが面白い、本当に感謝している。
- 講師がディスカッションに参加する機会を多く設けてくれた。レベルの高い議論に入ることができ、とてもよかった。
- 面白く、完璧な授業だった。
- ケーススタディや実践的な例が提示されて理解しやすい。また、学生が自分の国のケースを

探すなどの指示があると、より理解が深まると思う。
- 講義内容はすべてが素晴らしく、適切であった。
- 対面式だと、オンラインよりもより効果的だと思う。

＜批判的なもの、改善を求めるもの＞
- 授業中にホワイトボードでの補足説明がなされると、オンライン受講の学生はついていけない場面があった。
- オフラインのホワイトボードよりオンラインのホワイトボードを使った方が良い。
- 方法論に関する部分は少なくても良いが、より深く説明をしてほしい。
- 講師がトピックについてもっと説明してくれる時間が欲しい。
- この授業はとても面白いので、先生がもっと内容を説明してくれる機会があればと思う。
- コースはしっかりと説明があるが、1 セメスターではカバーしきれないほど多くのトピックがあるように思う。このコースが２セメスター間にわたって実施され、より深い理解、トピックの議論、資料の読み込みができれば最高だと思う。
- すべての資料を確認するのは学生の責任であるが、特にプレゼンテーションやライティングの課題については、講師がすべての「to do リスト」を 1 つのファイルにまとめるような工夫をしてほしい。
- 授業時間のマネジメントには改善の余地があると思う。
- 先生が主に前に立っていて学生と距離があり、教室内での立ち位置が適切でなかったので、可能なら少人数制のクラスにしてほしい。
- 講義によっては、もっとインタラクティブなアクティビティを取り入れることができる。
- 授業にもっと参加することで、意見や考え方の交換により貢献できると思う
- グループ活動の機会をもっと増やしてほしい。
- ディベートのような学生が討論に参加する機会を増やす。
- グループディスカッションの時間をもっと取り、講師の指導のもと、与えられた読み物やコンセプトを理解し、他の学生から学ぶことができると思う。また、パワーポイントでのプレゼンテーションも望ましい。
- ディスカッションの時間をもっと増やしてほしい。時間が足りず、シラバスの全てをカバーしきれなかったと思う。説明も丁寧で、講師のインストラクションについていくことができたが、講義内容は簡単ではない。授業でもっと事例を検討してもいいのではと思う。
- プレゼンテーションの他にクラスでの討論を加えることで、よりインタラクティブで興味深い授業にすることができると思う。
- 研究計画書の書き方についてのガイドラインを提供してほしい。
- 講師による説明がわかりにくい、理解しにくいことがある。
- 法律関係の資料が長くてややこしいので、文脈を解釈するときにもう少しゆっくりしてほしい。
- 資料の提示の際に、講師がもう少しゆっくり話してくれるとよい。
- 読書の課題や学生による読書についての発表が長すぎると思う。
- もっと応用的な課題を出してほしい。
- 主となるリーディング教材に関連するサブのリーディング資料をもっと示してほしい。
- 授業内で扱うトピックの説明部分をもっと増やしてほしい。クリティカルなリーディングの問題をもっと増やすべきだと思う。
- 課題の種類がもっとバリエーション豊かであるといい。
- 課題に関する指示と求められるレベルを明示してほしい。

- 評価方法がよくわからない。
- 講義での評価が、はじめの方から明確でなかった。講義のイントロダクションのところで、評価について情報を入れておくといいと思う。
- ライティング課題の要件を理解するために、もっと内容の説明をしてほしい。

- コメントペーパーに対するフィードバックが欲しい。
- 全体的なフィードバックだけでなく、課題に対する短い個別フィードバックがあると助かる。
- とても有益なクラスであり、体験学習が本当によかった。ただ、このコースは必修ではないため、他のコースと比較すると、課題の数が少し多いように思った（プレゼンテーション 2 回、コメントペーパー3 回、タームペーパーのような最終報告書 1 回）。いくつかの課題が減らされ、学生自身が自学し、研究方法に関する議論に時間を割くことができれば、最終的な論文作成に役立つと思う。
- 課題の量は他の 2 単位の科目と比較すると、特にリーディングの課題が豊富であるため、比較的多く感じた。個人的には、他のコースが大体週 2～3 時間必要なのに対し、このコースは週 4 時間程度（講義自体は含まず）の時間が必要だった。

- 指標についての説明は、開発の現場での実用性が高く、非常に重要なため、もっと説明の時間を増やす必要があるかもしれない。
- 数学の勉強に時間を割きたいので、数学についてのセッションを増やしてもらえるとありがたい。学生自身がもっと勉強しないと、授業内容に追いつくことができないと思う。
- 数学のセクションは、単純な計算ではなく、より実用的な例を使ってほしい。
- 経済学の入門クラスなので、理論を理解するために実例を盛り込むべき。
- 戦略的思考を養うために、もっと実例を分析する必要があると思う。
- 難しいモデルを簡単なビデオで説明するなど、視覚的な補助教材があると良い。
- 計量分析の練習の機会がもっとほしい、いくつかの論文の再現性を課題として出してほしい。
- もう少し講義が早く進んでも良い。微分のプロセスを説明するのにあまり時間をかけなくても、学生はパワーポイントの資料を見れば自分でできるようになると思う。

- グループワークでは学生同士の協力が必要だったが、グループの各メンバーのプログラムに基づいた勉強のスケジュールが異なっていたため、ディスカッションやインタビュー、報告のための場を設定するのが容易ではなかった。学生同士でグループを作ることができると良いと思う
- 発表の時間制限を設けず、自由に発表させるのはとても良いことだと思うが、発表時間や質疑応答の時間を管理した方が良いと思う。そうすれば、限られた時間の中で、いかに効果的なプレゼンテーションを行うか、その方法を練習することができると思う。学生は時間の制限をあまり意識せずに、たくさん発表し、議論していた。
- 自身はもっと発言しようと思っていたが、ディスカッションの際にグループ内には常にその議論を支配してしまう人がいて、その人の意見が大きく、他の人の機会を奪ってしまうことがあった。他のメンバーを尊重して理解することが必要だと思う。

- このオムニバス講義で扱われる内容は興味深いものであった。開発学の入門編としてのこのコースは、新しい学習者にとって重要だと思う。ただ、講義回の担当講師によっては、講義に用いる資料の全てを開示していない場合がある。また、パワーポイントスライドやテキストからの内容の読み上げのみがなされた場合には、そのような学習は自主学習と変わりないことから、講義や授業資料に価値を見いだせないところがあった。
- このコースは開発学について一般的に理解するのにとても役立っている。しかし、講義の中で出てくる知識や用語の中には、特に専門外の分野にとっては馴染みのないものもある。開発学が何をするものであるかということ以前に、開発学とは何かということをもっと知りたいと思った。
- 講義の資料（プレゼンテーション、リーディング課題等）が NUCT にアップロードされたのが授業の 1、2 日前だったことがあった。1 週間前くらいにアップロードされていると、授業開始前に十分な読み込みができるのでありがたい。

- コース自体は良いが、オンラインでの授業の提供方法は効果的ではない。一度に全員を受け入れることができないのであれば、2 クラスに分けて受講してはどうか。対面で授業に出席することを奨励する他のコースと、学校にいながらオンラインで授業に参加する学生が多いオムニバス授業は矛盾している。素晴らしい講座が配信されているが、私はモチベーションの低下と、対面で授業に参加できないことから、オンラインは最も効果的でないと考える。
- COVID-19 によって対面式の授業が行えなくなったことは理解しているが、このオムニバスの講義は対面式であることが重要だと思う。2 クラスに分ける方法もあるかと思った。
- すべての講義が ZOOM であったことを考えると、すべての講師が講義を行うことに問題はなかったと思う。しかし、学生はコメントペーパーを書いた 3 つの講義にしか注意を払わなかったところがある。課題を提出する予定のない、他の講義回にも学生の努力を促すため、別の評価方法を導入してはどうかと思う。
- コメントペーパーは、講義後 1 週間後に書くようにとの指示があったが、すべての講義を受講した後に書く方がいいと思う。同じ締め切りで、どれをやるか選べるようにした方がいいと思う（コース終了後でもいい）。
- 講師の方々はよくしてくださったと思いますが、プレゼンテーションの途中で受講生に質問を用意して、ディスカッションの時間を増やすとよいかもしれない。
- 課題に関して、もっと明確な指示が必要だと感じた。参考文献はワード数に含まれるのか、文字の大きさ、課題の評価はいつ見られるのか、提出したコメントペーパーについて講師からフィードバックはあるのか、など。

３. 授業内容の難易度や課題の質と量について (学生のレベルやバックグラウンドの差による問題)

- 学生は知的な能力が高く、勤勉であるが、英語ができないため、授業中に何を言っているのかわからなくなることがよくあった。ある用語が理解できないために内容に対して誤った解釈をしたり、理解できる部分だけを抜き出して全体の内容を誤魔化したりすることもあった。このような状況が続くようであれば、今後の対処法として、評価には用いない追加の補助的なリーディング課題を追加することも考える。
- 学生の希望通りケーススタディを増やすことが望ましい。ただ、その前提としてどのようなケースが、授業テーマのケースとして取り上げられるべきかについて知識も伝える必要があり、その時間配分が難しい。
- 学生には、自分のプログラムとは別のテーマでコメントペーパーを作るという課題を出すことができると思う。そうすれば、学生はその週のテーマに注意を払い、教材を評価し、理解するために、自分の専門分野から抜け出して課題に取り組む必要が生じる。他方で、講師は、他のプログラムを専攻する学生が理解できるように、プレゼンテーションを工夫することも必要となるだろう。
- リーディング課題が多すぎると感じる学生もいたが、コースのアカデミックな水準を保つためには、現在のリーディング課題の量を維持することが必要であると思う。
- より多くの練習量を望む学生もいるが、講義の時間を割いて練習の時間を増やすことはあまり現実的ではない。そこで、授業終了後に自主学習ができるように、練習用の教材や課題を追加することも可能である。
- 毎度のことだが、難易度についての学生の意見にはばらつきがあり、難しいと感じる学生は、授業の満足度にも影響する。特に今年は、質問や意見を述べて議論のレベルを引き上げる学生の数が例年より多く、それについてこられない者には苦しい展開であったかと思う。しかし、全体としては、より深く知りたい、議論したいという傾向が強かったので、学術的レベルを下げるという修正は必要ないと判断する。
- 難しい概念を理解するための TA クラスを導入し、特定のセッションを実施する予定である。
- 研究計画書の書き方について、もっとサポートする。

- 授業外のグループ学習で、各自が授業内容の 1 つのトピックを深く考察し、他の受講生が聴くように発表する。
- 基準が高すぎるという意見もあるが、適切であるという意見も同数ある。授業でカバーしなければならないことが多すぎるきらいがあるため、来年度は 1 つテーマを減らした方が良いという学生の意見には賛成である。
- 回答からは、大部分の学生にとってはちょうど良いレベルだったようである。
- 授業のレベルは適切であり、変更する必要はない。また、課題の量や質も適切である。
- リーディング課題の種類を増やす。今回は主なテキストをメイン教材として用い、各章ごとに読み進める形で授業を展開したが、異なる著者による論文をより積極的にリーディング課題として増やす必要があると感じた。
- ほぼ全ての学生がレベルは適切だと回答していたが、レベルが「高い」と回答した学生がいなかった。もう少しレベルをあげる余地があるのかもしれない。一方で、学生が完全に授業を理解していたようには思えず、ついていけなかった学生はそもそも授業評価に参加していない可能性もある。
- 学生数が多いので、全員の書いたものをチェックするのに同等程度の注意を払うのは難しい。この点は、作文や評価活動の一部を見直すことで改善できるかもしれない。
- 学問的な水準はそのままでいいと思うが、理論的な論文のリーディング課題をもっと頻繁に出しても良いかと思う。
- 受講生は様々なバックグラウンドを持っていることから、リーディング教材の量や充実度について不満を持つ学生もいたようである。
- 法学教育を受けている者とそうでない者が混在している中、入門的なところを押さえつつ応用まで話すことは、かなりの困難を伴っている。それでも教育レベルに関しては、それほど不満はないように感じられた。
- なぜ、経済発展との関連性を研究するのか、その理由をしっかり説明する。
- 課題の数が多く、厳しいと感じている学生が複数いる。次回の授業では、慎重に課題リストを絞り込んでいく。
- 講義 15 回に対して扱うテーマが多いことから、場合によってはテーマを少し減らしたほうが良いかもしれない。

４．授業の目的やテーマ設定について（全体の統一感・つながり、異なるバックグラウンドをもつ学生への対応など）

- 現在のコースの目標やトピックは、適切であると思う。
- これと言った一般的な教科書のない分野なので、この分野の意義や目的をよりよく論じている文献を学生に示していきたい。
- 授業タイトルやシラバスが実際の内容を反映していない側面があることは学生からも意見があった。タイトルは修正できないが、シラバスは次回、少し変えてみようかと思う。
- 大多数の学生から、肯定的な回答があったので、このままで良いと思う。
- シラバス内容や授業目標に関する否定的なコメントは見られなかったが、次回以降より具体的に記すことができるよう、また更新情報を載せることができるよう、修正していきたい。
- 国際開発に関わる諸分野の議論を広くカバーして教えているが、個別のイシューにもう少し踏み込んでもいいかもしれない。ただし、色々なプログラムの学生が参加しているため、あまり狭い範囲に限定するのもはばかられる。
- 自分の書いた文章を修正する方法をもっと学びたいと思う生徒もいます。今後、もっと力を入れてもいいと思う。
- この講座のトピックは、covid-19 の制約上、Zoom 通信を使ったインタビュートレーニングを選択せざるを得なかった。状況が落ち着けば、フィールドでの参加型観察に講座のテーマを広げる予定である。

５．教授法について（参加型・双方向的授業、異なるバックグラウンドをもつ学生への対応、学生の自主性を促す試み、ビジュアルツールの使用の是非、基礎知識の習得、学生による発表など）

- 大部分の学生から、肯定的な回答があったので、このままで良いと思う。
- 学生から提案があったように、学生による発表の時間を制限したほうがいいと思う。
- リーディング課題をより充実させる。
- 理論的部分をできるだけコンパクトにして、その分、ケーススタディについての解説に時間を充てるようにしたい。
- 学生は熱心で能力も高いが、本コースで扱う内容の背景知識のレベルは異なる。受講者の平均に合わせるようにしたが、おそらくコースの早い段階でこの一般的な知識レベルを確認する、重要な読解の課題を出すことが有効かと考える。
- 毎週の課題が少ない方がいい、他の方法で課題を課してほしいという意見があった。これも本講義が難しいと感じる学生に見られる傾向であるが、他方で、自分の提出したコメントペーパーに対する教員のフィードバックが欲しいという積極的な期待もあり、全体としては、今の方法を変えない方が、多数の学生の期待を満たす可能性が高いかと思う。
- 毎週の課題の管理は、資料の途中で激しい議論となったため、内容の一部を先送りする必要があったこともあり、簡単ではなかった。一方、課題はすべて授業開始前に回答できるようにした。コミュニケーションの問題なのか、授業の最後に私の指示を聞き取れなかった学生が少なくともいたことを確認している。
- 計量経済学の結果を説明するのに苦労している学生がいる。統計数値の読み方、結果の説明の仕方にもっと時間をかけるべき。
- 学術論文をもっと読むよう奨励する。
- ゆっくり、はっきり話すように心がけたい。
- 議論型エッセイは、学生の思考方法を鍛えるのであり、クリティカルシンキングにとても役に立つ。このようなトレーニングがもっと必要であると思われる。
- 講義回を減らして学生がトピックについて探求し、発表する機会をもっと設ける。
- 学生からの指摘にあるように、もっと議論が活性化する方法を取り入れる余地がある。
- 今期は議論ができる学生が多くいたため、途中から説明よりも議論ベースに進めた。その結果、自身からのインストラクションが少なめになったところがあり、それを物足りなく感じた受講生もいたように思う。この点については受講生の様子を見ながら、今後より柔軟に対応できるように努めたい。
- 教員からのフィードバックをより求める声も見られた。バランスを見ながら、できるだけフィードバックの機会を持てるようにしたい。
- 今年度は例年になく時間があいていたこともあり、色々と工夫して案外と頑張ったように思う。これ以上頑張るのは難しい。
- グループ課題やピアレビューのワークを追加する。
- もっと学生の発表の場を増やすべきかと思う。
- 今後は、視聴覚教材の活用や遠隔講義のスタイルなどを改善していきたい。
- ケーススタディに基づく議論をもっと盛り込んだ方がよいのではないか。
- シミュレーションモデルをもっと実践的に使った方が良いのではないか。また、Zoom などの ICT ツールの利用を増やすべき。
- 現在ハイブリッド形式で運営しているが、できれば来年度からはオンラインをやめて対面のみにしたい。オンライン参加者への配慮がどうしても不十分であると感じている。ハイブリッドでの学生とのコミュニケーションは、まだあまり容易ではない。教室にある音声とカメラの装置にはかなり助けられたが、物理的なホワイトボード以外の AV ツールの使用も考える必要がありそうだ。

６．学生の授業に対する取組みについての感想（学生のマナー、自主性、発言頻度、参加型・インターアクティブな授業形式、履修人数など）

- 全体として、授業に対する学生の態度は良好であった。
- オンライン授業では、生徒が自分の意見や感想を言えるようにしなければならない。
- 今回の授業は、学生の態度は非常に積極的だったと思う。提出された課題の水準も十分に高かった。
- 学生の積極的な議論への参加と批判的な視点により、私自身も充実感が高かった。
- ほとんどの学生がやる気満々で、熱心に勉強していた。積極的な学生が多く、講義がしやすかった。
- 大半の学生は、ツールを学び、実生活に応用することに強い意欲を持っていた。
- 今年は、過去の数年以上に積極的に参加する学生が多く、こちらもやりがいを感じた。
- 最初は受動的だったが、学期半ばから非常に活発になった。これは例年見られる傾向である。
- 今期の学生は、注意深く、活発に活動していた。しかし、議論への参加の度合いは学生次第である。参加するきっかけをどう作るか、もっと考える必要がある。

- 総じて真面目ではあるが、発言が一部の学生に偏る傾向があるのが気になった。また、文献を読みこなしているのか不明な学生もいた。
- 学生の構成が多様性にとみ、ほとんどの学生が議論に積極的に参加したので、たいへんよかったと思う。教える側の熱意により、学生の反応も活性化することを今さらながら学んだ。長年忙しすぎて、授業をないがしろにしてきたことを深く反省した。
- 全体的に、学生はこの授業によく参加していた。中国からの留学生（後に日本に入国）も欠席はほとんどなく、オンライン参加では授業やディスカッションの話題に追いつこうと頑張っていた。しかしながら、授業中にネットサーフィンをしている学生もいることは講師として気がついてはいた。
- オンライン参加者の発言が少ない。その一方、対面参加者が、一方的にしゃべりまくる場面もあった。
- 学生から、学生自身にグループを組ませるという提案があった。本コースでは、受講生の人数に応じて 5 つのチームを作り、グループワークに重点を置いている。様々な受講生が集まり、議論し、インタビューし、報告することは大変ではある。しかし、GSID の学生にとって、異なる様々なバックグラウンドを持つ学生との共同作業は重要であることから、次回の授業では、この授業の趣旨を丁寧に説明し、グループでの共同作業を積極的に進めていきたい。

７．その他

- 大人数のクラスを教える際に、より効果的な評価方法を検討したい。
- 評価基準の明確は課題として考えている。
- 評価基準が厳しすぎるという意見もあったが、体系的かつ公正に評価している。

- 科目により、回答率に大きくばらつきがある。
- オンラインでのアンケート実施にあたって、個別に設定された回答フォームではない、学生側による URL の混同使用により、回答がきちんと回収されない事態が数件生じた。今後は混乱を避けるため、回答フォームは URL が個別のものであること、等の学生への事前の周知が望ましい。